

02就職状況 内定率いぜん高水準

学部	調査数	求人数	有効求人数	内定数	内定率	選定決定者数	決定率	上場	上場率
経済学部	99 (18)	96 (17)	94 (17)	70 (12)	74.5 (70.6)	52 (52)	55.3 (58.8)	78 (2)	78.5 (80.2)
経済学科	72 (9)	71 (8)	69 (8)	51 (7)	71.8 (77.8)	41 (41)	57.4 (66.7)	15 (2)	38.6 (39.3)
国際経済学科	27 (2)	25 (2)	25 (2)	19 (1)	76 (76)	11 (11)	44.0 (44)	4 (4)	36.4 (36.4)
法学部	86 (27)	95 (27)	95 (27)	76 (18)	78.9 (98.7)	62 (52)	65.3 (64.4)	24 (4)	28.7 (33.3)
経済法学部	86 (20)	83 (19)	81 (17)	57 (13)	69.7 (76.5)	41 (17)	50.6 (41.2)	22 (2)	53.7 (64.8)
経済学科	72 (18)	70 (18)	68 (18)	45 (9)	64.3 (69.2)	32 (31)	47.1 (59.1)	17 (1)	51.1 (59.3)
国際経済学科	14 (2)	13 (2)	13 (2)	12 (1)	85.7 (100)	9 (4)	69.2 (100)	5 (2)	56.6 (59.2)
農学部	89 (23)	92 (23)	90 (23)	59 (15)	65.6 (65.2)	40 (42)	44.4 (52.2)	79 (4)	47.5 (33.3)
農業学科	72 (18)	77 (18)	75 (17)	46 (11)	60.7 (68.8)	27 (28)	38.1 (55.8)	33 (2)	46.1 (59.2)
食料学科	17 (2)	15 (2)	15 (2)	13 (1)	76.5 (100)	13 (1)	73.3 (100)	9 (1)	46.2 (59.2)
文学部	81 (32)	58 (31)	57 (31)	39 (23)	68.4 (74.2)	28 (34)	48.1 (62.2)	6 (3)	28.6 (21.4)
国文学科	16 (8)	16 (8)	16 (8)	8 (8)	50.0 (50)	8 (8)	50.0 (50)	0 (0)	0.0 (0.0)
日本文学科	17 (18)	15 (18)	15 (18)	9 (13)	60.0 (70.0)	6 (13)	40.0 (57.1)	0 (0)	0.0 (0.0)
人文学科	48 (12)	27 (11)	26 (11)	22 (8)	83.3 (102.7)	14 (14)	51.9 (68.4)	1 (2)	63.6 (76.2)
合計	435 (120)	424 (115)	417 (115)	310 (81)	74.0 (70.4)	222 (55)	53.5 (62.8)	32 (18)	41.3 (29.1)

02年度の就職活動状況調査(第2回内定率調査)がまとまった。企業の厳しい採用状況が続く中、本学の内定率は好調だった前年度同時期に比べやや減少しているものの、この時期としては高水準の結果となっている。

●求人総数の減少

本年度(03年3月)卒業予定の大学生・大学院生を対象とする、全国の民間企業の求人総数は56.0万人と、前年度より1.3万人減少した。長引く景気低迷による業績悪化などの理由により、前年度から採用数を減少させる企業の割合が若干ながら増えたためと推測される。しかし、企業側の採用

意欲は決して低い水準ではなく、本学における上半期の活動状況も前年度同様、好調なスタートとなっている。

●内定率は高水準

内定率は前年度に比べ0.6%減少したものの、この時期としてはかなり高い水準の中でのわずかな減少幅にとどまっている。また、企業と学生の需給バランスである本学の求人状況も前年度を若干下回っているものの、全体的には決して悪い状況とは言えない。

●女子学生は苦戦

一方、女子学生の内定率は前年度に比べ6.2%減少している。これは、企業における採用意欲の低下に伴い、減少分を女子の採用を控える形で調整したものと思われる。個別相談の中でも、女子学生の苦戦状態は見受けられる。しかしながら、就職課には毎日のように新しい求人情報が集まってきている。この情報を有効に生かすためにも、積極的に相談窓口を訪れてほしい。

●早まる進路決定

ここ数年、企業の採用活動はますます早期化してきているが、本年度は新たな特徴として早い時期での進路決定が目立つ。本学でも6月上旬(第1回調査)での活動状況では、前年度に比べ11.1%も高い決定率となった。大手企業の採用活動はほぼ上半期に集中するため、例年ある程度の数値は出ているものの、この時期としては異例ともいえる決定率であった。このような背景には採用数減少に伴う企業の採用活動の早期終幕があげられ、結果、内定を確保しながら他企業をチャレンジしたくてもできない、という現象が見える。

業種	調査日	02.6.30現在	01.6.30現在	
		件数	件数	
製 造 業	195	4.5	208	4.6
卸 売 業	222	17.6	918	20.4
小 売 業	694	16.2	777	17.3
金 融 業	554	13.5	581	12.9
マ ス コ ミ	314	7.7	345	7.7
情 報・調 査・専門・サービス	205	5.0	208	4.6
新 興 業	704	17.2	879	19.1
新 興 業	44	1.1	43	1.0
その他の業種	707	17.2	740	16.4
合 計	4100	100.0	4590	100.0

●厳選採用と一段の早期化

今年の就職戦線は例年の「厳選型採用」の一方、即戦力を求めて中途採用を重視する企業の動きが目立ち、新卒にとっては厳しい状況となった。新卒採用と中途採用を一本化する企業も出始め、新卒者にとっては、経験豊かな社会人との苦しい戦いとなっている。

今年度上半期における学生の就職活動スケジュールを追ってみると、まず、活動の早期化については、2週間程度前倒しされた。これにより企業の採用開始と言われる会社説明会・セミナーの実施時期がほぼ2・3月の春期休

暇中に定着した。

採用数そのものは、前年度に比べると若干縮小傾向のため、そのことだけをとらえれば前年度より早く採用をスタートさせる必然性はあまりなさそうだが、企業の採用を取り巻く環境は厳しく、他社に先駆けて優秀な人材を確保するために早期化せざるを得ないというのが実情であろう。早いところは採用試験(筆記、面接)を2月中に実施し、3月に入ると内定を出すという企業もあった。

●早期内定は金融、コンサルタント、サービス業から

早期に内定を出している企業を業種別に見ると、銀行など金融業やコンサルタントなどその他サービス業が中心で、次に百貨店、スーパーなど小売業界が続いている。5月以降は中堅中小企業の動きが活発化してきたが、今後は情報の得にくい企業に対する活動が中心となるだけに、今まで以上に就職課を有効に活用するように呼びかけている。

[7月15日/ニュース専修1面]

学ぶ楽しさ“発見” 体験授業フェアに1013人

6月16日(日)生田キャンパスで初の試み「体験授業フェア」が開催された。来場者数は1013人、講座への延べ出席者数は1950人で、1人平均2講座受講した計算。

三重県や兵庫県からの参加者もあり、「パンフレットでは分からない授業の雰囲気を感じた」「大学では丸暗記するのではなく『考え方』を学ぶことが大切だとわかった」などの感想が寄せられた。

入学センターでは「初めての企画でどれだけの参加者が見込めるか、気になっていたが予想を上回る結果でホッとしている。来年もさらに充実したフェアを実施したい」と話している。



〔7月15日/ニュース専修1面〕